

経営学史学会通信

第3号 1996年10月

理事長を仰せつかって

加藤勝康

本年6月に青山学院大学で開催された第4回大会において、前理事長三戸公先生の後を受けて、囂らずも理事長を仰せつかりました。誠に光栄なことですが、正直なところ困惑致しております。このような大役を担うに足る才を欠くことは、私自身が最もよく自覚するところだからであります。

1993年5月29日、30日の両日にわたり明治大学において経営学史学会創立大会が開かれてから既に三年余が経過致しました。この間に、三戸前理事長を始め理事・幹事の諸先生の献身的なご努力と会員諸先生の熱心なご支援によりまして、学会は順調に発展し経営学界に大きな寄与を成し遂げてまいりましたことは、誠に同慶の至りであり、諸先生のご協力に衷心より感謝申し上げる次第であります。今回、新たに学会の舵取り役を仰せつかり、責任の重さを痛感致しております。もとより非才の身ではありますが、経営学史学会の一層の発展に向けて懸命に努力する所存でございます。会員諸先生のご指導ご鞭撻を切にお願い申し上げます。

思いますに、今日の経営学史学会は、最も困難な組織始動の時期を終え、財政的にも学会維持のための必要最小限の規模に近づきつつあります。今後の方向としては、会員数拡大の努力も欠かせませんが、学会運営の質的向上をもってする発展の方途を探ることが重要な課題ではなかろうかと思慮致しております。その際における基本的な指針が、今は亡き山本安次郎先生の「経営学史学会設立趣意書」および学会編第一輯『経営学の位相』において既に明示されておりますことは、誠に幸せであります。「設立趣意書」によれば、学史的研究は「単に懐古趣味に止まるものではなく、むしろ積極的に将来への発展の道を見出すところに意味がある」のであり、孤立分散的な研究スタイルを脱却して、経営理論の歴史的研究者が一堂に会して切磋琢磨する機会をもつ場、そして「特に将来の若い世代の研究者のために広く先人の諸学説を歴史的、理論的に検討しそれぞれの意義を知るための場」を設定することが、経営学史学会の使命であります。このような学会創立の初志を貫徹すべく、会員諸先生のご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

第4回大会をふりかえって

経営学史学会第4回大会が、去る5月17～19日、青山学院大学経営学部（渋谷区）で開催された。大会委員長の坂井正廣教授のご尽力の下に十分な準備と良好な運営によって、多くの参加者を迎えて、執り行われた。

17日の理事会で学会活動の報告と計画などについて審議された。18日の午前中は、統一論題に関係したものも含めて四つの自由論題の研究結果が発表され、活発な質疑応答がなされた。その午後と翌19日には、統一論題「アメリカ経営学の潮流」のもとに、8名の報告と討論がなされた。前回の日本経営学史関係の企画を受けて、目を外に転じ、経営学の発展をリードしてきた主要国のアメリカの経営学を取り上げた次第である。対象は同じではあっても従来にない新しい視点・考察法が示されたり、従来の経営学の多くの研究者の在り方に対する批判が出されたり、対象のアメリカの経営学説を更に発展させる努力が行われたりして、真摯な論議を誘発することになった。開催校の青山学院大学経営学部と同じ様な「21世紀の人に役立ちたい」との想いで、経営学史研究の三日間を過ごした訳である。

また、本大会で「理事・会計監事選挙」が初めて実施されて、加藤勝康理事長・坂井正廣副理事長・大橋昭一副理事長を中心にした新体制ができあがった。学会の更なる発展のために会員各位のご支援・ご協力をお願い致す次第である（河野大機記）。

1996年度会員総会議事要録

1996年度会員総会は、第4回大会二日目の5月18日（土）午後4時20分から開催され、以下のような理事会案が提案・報告され、審議の後了承された。

議事に先立ち、亡くなられた7名の会員のご冥福を祈り、黙禱を捧げた。

1) 1995年度活動報告：95年5月に中京大学で第3回大会が開催された。その成果を踏まえて年報第3輯『日本の経営学を築いた人びと』が取り纏められ、第4回大会の会場である青山学院大学で出席会員に配布された。また、第2輯と同じ定価¥2,884で市販されることになった。年報の既刊分の販売状況が報告され、販売促進への協力が要請された。

2) 1995年度収支決算報告：理事会で承認された決算案（別記参照）について説明があり、原案通り承認された。

3) 1996年度活動計画：本学会の活動の中心は年次大会等の研究活動であるので、第5回大会の企画・準備に努力すること、年報第4輯の刊行に努力すること、会員の研究活動を学会ができるだけ支援すること、が了承された。

4) 1996年度収支予算案：理事会で承認された予算案（別記参照）が提案され、原案通り承認された。

5) 新入会員、退会者の承認：新入会員17名（普通会員14名、院生会員3名）、退会者3名、自然退会者4名が承認された。物故会員は7名に上り、その結果、会員総数は282名となることが報告された。

6) 第5回大会の開催予定：97年度の第5回大会が、関西大学で開催されることが承認された。期日は、主催校の学事予定の都合上、例外的に6月6日（金、理事会）、7日（土、報告）、8日（日、報告）となった。主催校を代表して大橋昭一理事が挨拶され、大会実施要領を理事会と主催校に一任することが了承された。

7) 役員改選：学会会則に基づき、第1期の役員3名の任期が満了し、はじめての役員選挙が行われた。選挙の結果については、別記の通りである。

8) 学術会議への加盟申請：学会創立後満3年を経過し、学術会議に加盟する条件が整ったので、加盟申請を行うことが承認された。（9月10日、登録申請が受理されました。）

役員改選

学会創立後初めての役員選挙が会員総会で行われた。理事会で、幹事6名による選挙管理委員会の設置が承認され、会員総会でも了承された。会員総会の席上、片岡信之幹事が代表して、選挙に関連する会則の条項と有効票・無効票などについて説明した上で投票に入った。選挙の結果、新理事10名と会計監事2名が決まり、新理事の協議によって補充理事5名が決定した。大会3日目の昼休み時に、新理事会が開催され、理事の互選によって新理事長と副理事長が決定した。第2期(1996年～99年)の役員は次の通りである。

理事長	：加藤勝康	
副理事長	：坂井正廣 大橋昭一	
理事(15名)		
東ブロック	：稲葉元吉(横浜国立大学)	加藤勝康(青森公立大学)
	：坂井正廣(青山学院大学)	佐々木恒男(日本大学)
	：中村瑞穂(明治大学)	平田光弘(一橋大学)
	：眞野 脩(北海道情報大学)	
西ブロック	：稲村 毅(大阪市立大学)	大橋昭一(関西大学)
	：片岡信之(龍谷大学)	川端久夫(熊本学園大学)
	：細川 進(香川大学)	三戸 公(中京大学)
	：村田晴夫(桃山学院大学)	吉田 修(滋賀大学)
会計監事(2名)	：河野大機(多摩大学)	原田 實(九州国際大学)
幹事(7名)	：伊藤研一(摂南大学)	小笠原英司(明治大学)
	：佐護 譽(九州産業大学)	相馬志都夫(中京大学)
	：高橋由明(中央大学)	廣瀬幹好(関西大学)
	：吉原正彦(青森公立大学)	

なお、その後の第2回理事会で、理事会ならびに会員総会の議事録署名人を大橋、坂井両副理事長に、総務担当を佐々木理事に委嘱した。

年報第3輯『日本の経営学を築いた人びと』の刊行

本学会の年報第3輯が刊行され、会員の皆様には第4回大会(於青山学院大学)において配布いたしました。大会に欠席された方やお持ち帰りにならなかった方には、後日、郵送いたしました。第3輯は論文16本、190ページ、文献11本で、総ページ数215ページとなりました。大会プログラムはいささか窮屈で、苦情もいただきましたが、大会の成果を取り纏めた第3輯は立派なものになりました。日本の経営学の先駆者については、今後も何回かに分けて取り上げて行くことになるでしょう。

さて、ご承知のように、専門書の販売は何処も大変苦しいようです。学会としては、発行部数を押さえ、単価もできるだけ押さえて、赤字にならないように努力しております。会員の皆様には、それぞれの所属機関の図書館や資料室、研究室に複本で学会年報を購入して下さるよう、重ねてお願いいたします。年報も次第に叢書の形になってきました。今後、5年、10年と刊行が続けば、経営学研究の貴重な資料となるでしょう。ラックがないように、今から購入の手続きをお願いいたします。

1996年度会費納入のお願い

1996年度の会費の納入をお願いいたします。金額は次頁の通りです。学会事務局からお送りいたしました振替用紙を使って、振り込んで下さい。領収書は、振替払込書の振込票

1995年度収支決算

自：1995年4月1日
至：1996年3月31日

(単位：円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前年度繰越金	296,643	第3回大会費	100,000
過年度会員会費	240,000	年報第1輯買増し費	77,250
本年度会員会費Ⅲ	1,133,000	年報第2輯買上げ費	751,000
次年度会員会費(前払)	12,000	年報第3輯買上げ引当金	300,000
終身会員会費特別会計より	116,000	会員名簿作成費引当金	100,000
賛助会員会費	40,000	年報発送費	48,360
年報販売収入	8,320	郵便・通信費	56,390
利息	406	印刷費	61,188
(以下余白)		消耗品費	26,403
		会議費・交通費	64,871
		事務局費	43,748
		会費振込手数料	10,140
		雑費	47,068
		次期繰越金	159,901
合 計	1,846,369	合 計	1,846,369

1995年度終身会員会費特別会計

(単位：円)

収 入		支 出	
前年度繰越金	629,000	93年度分の振替	81,000
60歳代(2名)	60,000	94年度分の振替	29,000
(以下余白)		95年度分の振替	6,000
		次年度繰越金	573,000
合 計	689,000	合 計	689,000



1996年度予算

自：1996年4月1日

至：1997年3月31日

(単位：円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	159,901	第4回大会費	100,000
過年度会費Ⅲ	420,000	年報第3輯買上げ費	450,000
本年度会費Ⅱ	1,200,000	年報第4輯買上げ引当	300,000
終身会員会費特別会計Ⅳ	143,000	名簿作成費	100,000
賛助会員会費(3口)	60,000	年報発送費	50,000
雑収入	1,000	郵便・通信費	100,000
(以下余白)		印刷費	70,000
		会議費・交通費	150,000
		事務局費	70,000
		予備費	300,000
		会費振込手数料	20,000
		雑費	50,000
		次年度繰越金	223,901
合計	1,983,901	合計	1,983,901

1997年度終身会員会費特別会計

収入		支出	
前年度繰越金	573,000	過年度分の振替Ⅲ	116,000
60歳代(5名)	150,000	本年度分の振替Ⅳ	27,000
70歳以上(3名)	60,000	次年度繰越金	640,000
合計	783,000	合計	783,000

1997年度第5回大会の企画

来年度の大会は、6月6日（金、理事会）、7日（土、自由論題、統一論題）、8日（日、統一論題）の日程で、関西大学（大会委員長、大橋昭一理事）で開催されます。経営学史学会の大会は、例年、5月の第3週に開催されることになっていますが、明年は、主催校の学事予定の関係で、例外的に6月にずれ込みますのでご注意ください。

大会企画の要は、統一テーマの設定と報告者の人選です。統一テーマについては第4回大会開催以前から、前理事長を中心に、運営委員会で議論を重ねてき、「経営学の最新動向」でどうかというところまで煮詰められてきました。大会期間中の理事会でこの案を検討していただき、議論は第2期の理事会に引き継がれました。

新しい理事会のもと、運営委員会で報告の候補者を考え、交渉してゆくなかで、「最新動向」も「新動向」もなかなか難しいということになり、主としてアメリカ以外のところで経営学研究の最近の動向がどうなっているかを探ろうというところに落ち着いてきました。そして、最新の研究テーマをめぐる議論だけではなく、古典の新解釈や通説に対する批判などもこれに含めて、「経営学研究のフロンティア」という統一テーマで理事会（回議）に諮りました。いろいろご意見がありました。ほぼこれでご承認いただけたように思われます。

さて、報告者の方ですが、現在までのところドイツに関しては、海道ノブチカ先生、永田 誠先生、高橋由明先生、長岡克行先生からご承諾をいただいております。イギリスやフランス、アメリカについては、現在、幸田浩一先生、日高定昭先生、高橋公夫先生らと交渉を進めております。

また、最終日午後には、日本の経営者の経営思想ということで、実際の経営者と研究者に話してもらうことになっています。三戸理事の御尽力で、清水龍壘先生に報告の御承諾を頂き、また適当な経営者を選んでいただくことになっております。ご期待下さい。

先日の運営委員会では、経営学史学会らしく、大会会場での議論を活発にする方法がいろいろ検討されました。試みに、明年の大会から報告時間を短縮して40分とし、質疑応答を20分とすることにしました。将来的には30分、30分にしたいと考えています。報告時間を短縮するかわりに、報告レジュメをもっと充実させて、事前に配布することになりましたので、予稿集を事前によくお読みいただいて大会に臨まれ、会場で活発な議論を展開していただきたいと願っております。また、司会者には単なるタイム・キーパーではなく、チェアパーソンとして、会場の議論を盛りたて、リードしていただくようお願いすることになりました。

報告者の募集

大会での報告をどなたにお願いするか、原案をつくる運営委員会も、主催校も、理事会も、毎年、大いに頭を悩ませます。同じ人が何回も出ないようにと注意しながら、しかも興味ある報告で、レベルはできるだけ高くと欲張って、いろいろ考えます。

理事会では、常時、報告希望者を募っています。あるいは、あの人の話を聞きたいという推薦も是非ともお願いいたします。多くの自薦、他薦のなかから、統一テーマに最もふさわしい人に報告をお願いできるようになればと願っております。

自由論題の報告は、できるだけ若手研究者や大学院生にお願いしたいと思っておりますので、論文完成の一方法として、ご遠慮なく学会事務局にお申し出下さい。

会員の研究活動に対する学会からの支援

経営学史学会も、今年で創立後満3年が経ちました。学会創設期のご苦勞をされた第1期(1993~96)の役員も改選され、新しい体制で第2期(1996~99)の学会活動が展開されることになりました。これまでは、充実した年次大会の開催と市販に耐えうる学会年報の刊行を軸に、学会の基礎固めの地道な活動が続けられてきました。

第2期を迎えて、そろそろ部会をとという声があちこちから聞かれるようになりました。会則第16条には、地域別あるいはテーマ別の部会の設置が明記されておりますので、会員の皆様のご希望があれば、部会は組織化できます。

それに先立ち、理事会では、会員の研究活動を活性化しようと考えております。そのために、会員の研究活動に対して、学会として資金的に支援することになりました。本年度、すでに下記のような2件の申し込みがあり、それぞれささやかな援助金(各2万円)が交付されました。研究会や講演会の連絡や案内の郵便代の一部にでも使っていただければと考えております。予算に限りがありますが、ご希望の方はどうぞご遠慮なく、事務局にお申し込み下さい。

1：日本フォレット協会10周年記念大会(責任者：榎本世彦会員)

96年7月31日、青山学院大学会館

P.グラハム氏講演

2：シャンツ教授講演会(責任者：大橋昭一副理事長)

96年11月9日、関西大学

G.シャンツ教授講演

新入会員

1996年5月17日の理事会で承認された新入会員は次の17名の方々です。

氏名	所属機関	専攻分野
荒井宣雄	常盤大学短期大学部	産業社会学・経営学
鎌田伸一	防衛大学校	経営学・組織管理論
木村清司	愛国学園短期大学	経営学原理
栗生 実	立命館大学大学院後期課程	労務管理論
関口 功	新潟経営大学	労務管理論
高木直人	龍谷大学大学院前期課程	経営学説
高橋正泰	明治大学	経営学
寺石雅英	群馬大学	経営財務論, 経営管理論
那須野公人	作新学院大学	経営史, 日本経営史
永野孝和	国土館大学	経営学, 管理論, 経営情報システム論
長谷川 正	京都学園大学	経営学, 人事管理論
服部 治	金沢経済大学	経営学, 人事管理論
藤本くみ子	関西大学大学院後期課程	経営管理論
真船洋之助	日本大学	経営学
水原 熙	関西学院大学	経営経済学, 経営組織論
渡辺敏雄	香川大学	ドイツ経営学, 経営学方法論
渡辺利文	宇部短期大学	経営戦略論

1996年5月17日以降に入会手続きをされたのは、次の方々です。

阿部敏哉	青森公立大学	経営管理論
佐藤一彦	秋田桂城短期大学	日本企業論, 日本経営史
野末英俊	秋田桂城短期大学	経営管理論
磯村和人	福島大学	組織論

退会者

1996年5月17日の理事会で退会が承認されたのは、次の方々です。

希望退会：川崎文治, 高橋宏幸, 牟礼早苗

自然退会（会則第4条の5による）：上村祐一, 醍醐作三, 苗 不二男, 藤井 耐

物故者

1995年度中に亡くなられた会員は、次の方々です。謹んで、ご冥福をお祈りいたします。
飯野春樹, 植村省三, 進藤勝美, 高田 馨, 田島司郎, 正木久司, 横川義雄

以上の結果、1996年9月現在、会員総数は286名となりました。

新しい会員名簿の作成

1993年5月の学会創立から満3年が経過いたしました。その間、会員諸氏の所属機関や住所の変更がかなりありますので、会員名簿を新しく作成し直すことになりました。丁度よい機会ですので、記載事項も増やすことにいたしました。新しい名簿では、氏名、ローマ字振りカナ、所属機関、専攻分野あるいは研究テーマ、住所、郵便番号、電話番号、Fax番号、e-mailのアドレスが掲載されます。会員の皆様からアンケート用紙あるいはハガキで提出していただきました資料に基づいて作成いたしておりますので、それらを提出されなかった方々につきましては、古い名簿のままになっております。

住所や電話番号の変更がありました場合には、速やかに学会事務局までお知らせ下さいますようお願いいたします。

編集後記

これまで学会の事務局を担当し、繁雑な事務処理を一手に引き受けて下さっていた小笠原英司幹事（明治大学）が、今年4月に、大学からの海外派遣でアメリカに出かけられました。小笠原先生の留守中、佐々木が肩代わりすることになり、第4回大会を間近に控えた時点で慌ただしく引き継ぎを行いました。不慣れと能力不足で、事務処理が滞りがちであり、会員の皆様にもいろいろご迷惑をおかけしております。どうか事情ご賢察の上、ご海容のほどお願い申し上げます。